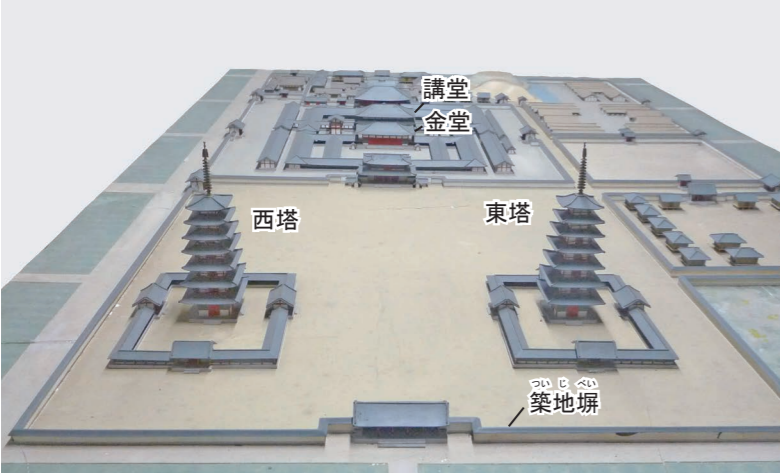


● 2塔1金堂式の伽藍配置の寺院

薬師寺 (写真、薬師寺提供)

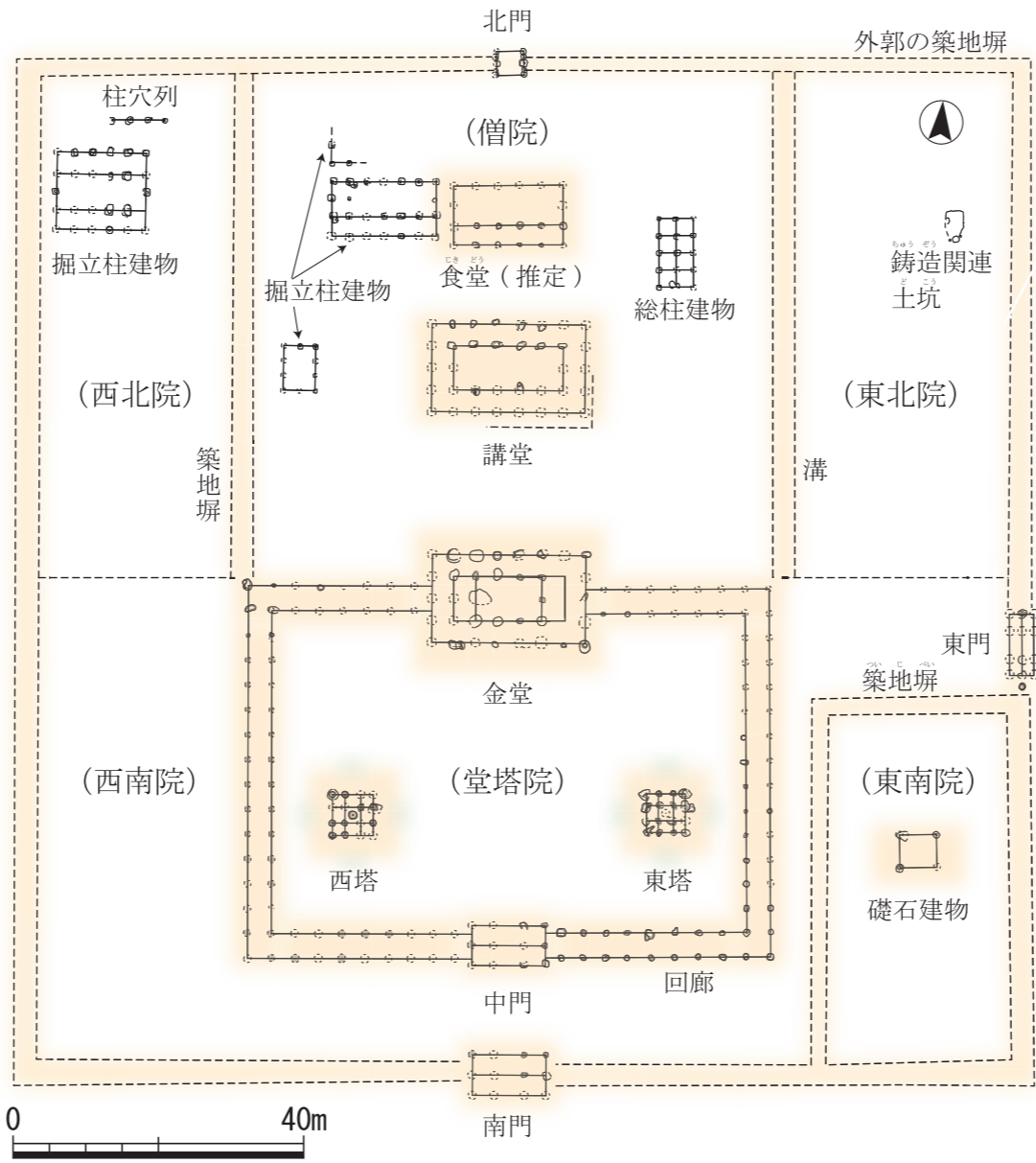


大安寺 (復元模型、大安寺所蔵)



2塔1金堂式の伽藍配置の寺院は、朝鮮半島では統一新羅時代の7世紀後葉～8世紀に多くみられます。日本では、奈良の東大寺・大安寺・薬師寺など、中央の大寺院で主に採用されています。

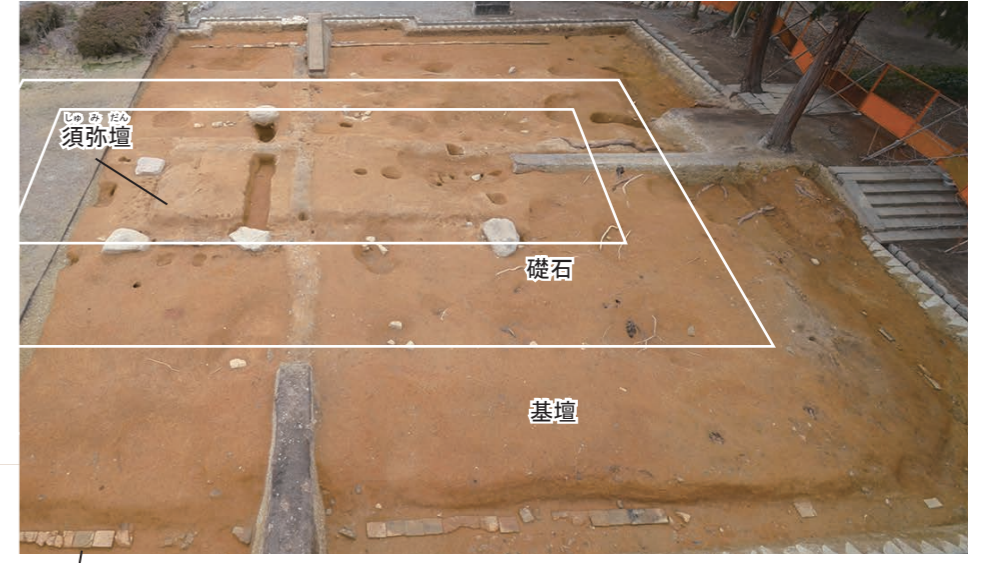
● 百濟寺における2塔1金堂式の伽藍



百濟寺の伽藍配置

金堂 (北から撮影)

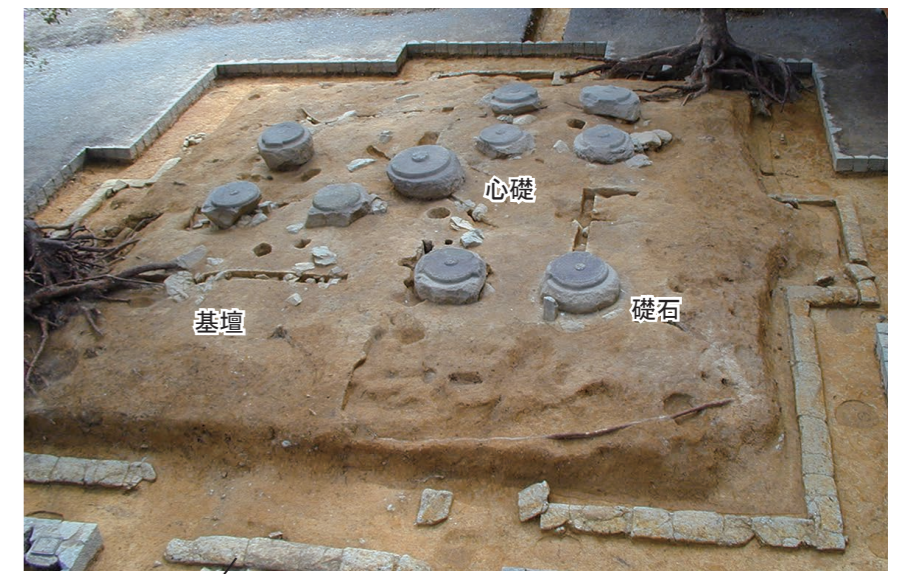
4間×7間の入母屋造り。建物の中央部には、仏像を安置するために基壇上面よりわずかに高く設けられた須弥壇(2間×3間)の跡も残っていました。



基壇裾の磚(古代のレンガ)列

西塔 (北から撮影)

中央には塔の中心の心柱を据える心礎(礎石)があります。同じ三重の塔ですが、薬師寺よりも少し小さかったようです。



凝灰岩の延石



百濟寺の堂塔の軒先に葺かれた丸瓦と平瓦

百濟寺は、わしの子や孫らが造ったようじゃ。サイズは少し小さいが、当時の政府が造った薬師寺、大安寺、東大寺と似た伽藍配置なのじゃ。この寺の格の高さがわかるじゃろ。



くだらの口にききょうふく 百濟王敬福(イメージ)